子どもと保育総合研究所主催

子ども保育
実践研究会
2024年度

冬季セミナー

日　時

2025年1月12日（日）
10:30 ～17:30（10:00 受付開始）

プログラム

10:30	開会挨拶　渡邉英則 （港北幼稚園・認定こども園ゆうゆうのもり幼保園園長）
10:35 ～ 12:05	講演 「あらためて、「保育とは何か」を考えよう」 佐伯胖（信濃教育会教育研究所 所長）
	お昼休憩
13:20 ～ 14:50	実践提案① 「子どもの学びが広がり、深まる保育とは」 実践提案　荒尾第一幼稚園 宇梶達也（園長） 増永彩希（5歳児担任保育者） コーディネーター 西井宏之（白梅学園大学附属白梅幼稚園） パネリスト 髙嶋景子（聖心女子大学 教授） 亀ヶ谷元譲（宮前幼稚園・宮前おひさまこども園副園長）
	休　憩
15:00 ～ 16:30	実践提案② 「地域とのつながりの中での保育実践」 実践提案　幼保連携型認定こども園　正和幼稚園 齋藤祐善（理事長）・大崎志保（園長） 谷口直希（4歳児担任保育者） コーディネーター 大豆生田啓友（玉川大学 教授） パネリスト 三谷大紀（関東学院大学 准教授） 佐伯絵美（合同会社子どもベース 代表）
16:30 ～ 16:35	まとめ
16:45 ～ 17:30	アフタートーク ※オンライン参加の方もブレイクアウトルームにてご参加いただけます。

会　場

株式会社セブン＆アイホールディングス **伊藤研修センター**
（神奈川県横浜市港北区新横浜2-19-1）

- JR新横浜駅　北口より　徒歩約11分
- 横浜市営地下鉄　新横浜駅出入口4より徒歩約10分

※駐車・駐輪スペースはありません。公共交通機関をご利用ください。

※昼食時に飲食スペースの利用が可能です（販売はありません）

参加費

定　員　会場・オンライン 各150名（先着順）

オンラインはZoomミーティングを使用した配信です。

参加費

会　員	￥3,000
会員外	￥4,500
学　生	￥1,500

※参加費は会場・オンラインともに同じです。

申込方法

会場で参加される方
https://kodomotohoiku2024winter.peatix.com

オンラインで参加される方
https://kodomotohoiku2024winter-online.peatix.com

申込期限　1月6日（月）13:00

※申込サイトでお申込みできない場合は、メールでご連絡ください。
※ご入金後キャンセルの場合は返金できません。

お問合せ　子どもと保育総合研究所事務局　Email：edu@kir.jp　TEL&FAX：045-534-0530

冬季セミナー開催にあたって

今年の冬季セミナーは、改めて新横浜での研修会場を確保して、対面を中心にハイブリッド形式で行います。急激な少子化が進む中で、また保育の質が求められている状況も踏まえた上で、改めてこれからの保育で大事にすべきことは何か、また乳幼児施設が取り組むべき多機能化や地域共創とはどのようなことなのか等を、実践から考える内容となっています。また、佐伯先生には乳幼児教育と小学校教育の違いに触れて頂きながら、「保育とは何か」について、「子どもを人間としてみる」という基本に立ち戻って講演していただく予定です。

今回からアフタートークでは、対面参加の方だけに限定せず、オンライン参加のみなさんもブレイクアウトルームに分かれて、感想や思いを話し合う形で交流していただける機会を設けました。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

要　旨

実践提案①

「子どもの学びが広がり、深まる保育とは」

実践提案　荒尾第一幼稚園
宇梶達也（園長）
増永彩希（5歳児担任保育者）

目の前のコトに心をうばわれるとき、子どもは何度も繰り返したり、また繰り返していく過程でこうしたいという想いが芽生えていきます。しかし、予想外のことに出合うこともあります。むしろその出合いは日常かもしれません。子どもは、うまくいかないことに出合いながら、問いや手立てを自分で、あるいは仲間で考えて乗り越えていくのでしょう。

だとしたら、そのような子どもたちの学びの広がりや深まりを後押しする環境とはどのようなものなのでしょうか。また、そのような子どもたちの経験を後押しする保育者の役割とは何か、あるいは保育者の構えとはどのようなものでしょうか。

実践提案①では、熊本県荒尾第一幼稚園に実践をご提供頂きます。同園は、2023年度ソニー幼児教育支援プログラムで「優秀園 審査委員特別賞」を受賞しました。子どもたちの遊びが深まっていく環境構成を皆様と一緒に学び合えたらと思います。

実践提案②

「地域とのつながりの中での保育実践」

実践提案　幼保連携型認定こども園 正和幼稚園
齋藤祐善（理事長）
大崎志保（園長）
谷口直希（4歳児担任保育者）

「こどもまんなか社会」は、地域の中での園の役割が大きくなる時代です。そこで、実践提案②では、地域とのつながりの中での保育実践を考えたいと思います。論点の第一は、子どもの育ちや学びの視点です。地域を子どもの学びの環境（資源）としての活用について考えます。第二には、持続可能な社会を作っていくための拠点として、園と地域がつながっていくための視点です。これは、「地域共創」あるいは「まちづくり」としての園づくりと言えるかもしれません。この２つの視点からみなさんと考えたいと思います。

講演

「あらためて、「保育とは何か」を考えよう」

佐伯胖（信濃教育会教育研究所 所長）

昨年の冬季セミナーでの佐伯講演タイトルは“今こそ、「保育とは何か」を考えよう”でした。事前に提出した「概要」では、「保育の英訳は“Early Childhood Education and Care”となっていることから、Education とCare の関係－「Education入りCare」なのか「Care入りEducationなのか－を考える、という内容でしたが、実際に話した内容を当日のパワポから見直してみるとそういう話はナシ。ひたすら「日頃、思っていること」をただつらつらしゃべりまくって「ハイ、終わり」でした。ひどいものですね。これじゃあ、「もう一回、やれ」と言われるのはごもっとも。

それでは本年度は何を話すか。それは、私が「あらためて保育とは何かを考える」とき、立ち返る「原点」は「ドーナツ論」だということです（「ドーナツ論」の説明は、ここでは省略）。
結論：日本の幼児教育は「ドーナツ論」の第一接面主義、学校教育は第二接面主義であり、文科省（学習指導要領／幼稚園教育要領など）は、「第一接面を大切に（というスローガンのもとに）学校教育の第二接面に誘導すべし」、としている。この二枚舌戦略にだまされないために、ほんとうに「あらためて」、“保育とは何か”を（ドーナツ論から）考えようという“というのが、本年度の冬季セミナーにおける佐伯講演の「おやくそく」です。この「おやくそく」はまもるつもりです。
（あくまで、現時点の「つもり」ですが。）

アフタートークのご案内

プログラム終了後、その内容をもとに、バズ・セッションを行います。
実践提案や講演を聞いて終わりではなく、そこから考えたことを発信し合い、学びを深める時間としたいと思います。
オンライン参加のみなさまはZoomブレイクアウトルームでのグループディスカッションになります。